

第166回山形県社会教育委員の会議 議事録

日時：平成24年5月30日（水）

13：30～16：00

会場：山形県庁 講堂

※開会前に辞令交付

1 開会

2 県教育委員会挨拶

3 座長選出

各委員から了承のもと、舛田忠雄委員を座長に選出。

4 議 事

(1) 平成24年度社会教育・生涯学習振興の推進にあたって

【生涯学習振興課】

平成24年度事業について、「山形県社会教育2012」及び事業スキーム図により説明。

【舛田委員（座長）】

事業の説明があつたが、質問はないか。

【安藤委員】

社会教育主事講習についてだが、資料に定員が19名と記載されているが、県費負担分はすべて充足したということか。

【生涯学習振興課】

教員等県費負担の者は14名であり、市町村からの受講者5名を含めて、合計19名の応募である。

【安藤委員】

県費負担の予算が5名分残っている。市町村間での競争型等でも良いが、何か仕組みを考え、この予算を市町村に補助できる仕組みができないか検討して欲しい。資料に社会教育主事の発令数が記載されているが、有資格者でありながら、記載されていない例もあるようだ。学社融合主事等の独自のものも記載されてはいないようだ。昭和34年の規定が残っており、発令していない市町村もあるが、有資格者にはきちんと発令するよう、指導いただきたい。

派遣社会教育主事制度の廃止についても、市町村からの復活要望も多いと聞いているが、いかがか。

【生涯学習振興課】

趣旨はわかるが県費分の予算を市町村職員に補助するという事は難しい。派遣社会教育主事については、19年の制度廃止時に、各教育事務所の社会教育主事を1名増とし対応している。派遣社会教育主事の復活は、難しい。

【舛田委員（座長）】

市町村からの派遣者については、市町村が負担しているのか。

【生涯学習振興課】

そのように理解している。

【山口委員】

このことは、置賜地区の振興会でも話題となった。米沢市が2年に1名程度派遣しているが、市町村の財政事情は厳しく、中々派遣できないでいる。8つの自治体で積立方式等できないかと話題にしている。

【舩田委員（座長）】

生涯学習の振興を図る上で社会教育主事有資格者の存在は大きい。毎年、この会議でも話題になっている。市町村によっては、各係に社会教育主事有資格者を1名配置するという計画で進めている市町村もある。そういう市町村の社会教育は活発である。検討して欲しい。

【安藤委員】

公民館の現状と課題を調査すると、まず職員の専門性であると回答が返ってくる。社会教育主事講習に私費でいく例もあり、重要な課題である。

【横山委員】

生涯学習、社会教育は、人生80年の中の各年代でそれぞれに必要なものと理解している。幼児から高齢者まで、各世代に関わる多様な事業が展開されるべきと考えるがいかがか。

【生涯学習振興課】

生涯学習に資する事業は、県庁各課で広く行われている。そのうち本課では、社会教育にかかわる事業を中心に施策を実施しており、それらについて記載している。すべての生涯学習に関わる施策を本課で実施しているわけではない。ポイントを絞った生涯学習・社会教育事業を展開していきたいと考えている。

【横山委員】

各市町村等で実施される事業には、お年寄りに関わるような事業がある。教育事務所や県の事業でも、子ども達の事業と同じ位大人の事業にも力をいれて欲しい。

【片桐委員】

学校現場の立場から言えば、本当に困っているのは子どもであり、その親である。例えば、シングルマザーの支援である。一般的な家庭教育の研修会といった手法だけでなく、もっと突っ込んで、困っている親に支援の手を差し伸べるような事業が欲しい。

重点を絞り、本当に必要なところに事業展開した方がより効果的と考える。例えば、放課後子どもプランについては、本校の学区では、学童の待機児童は増えており、クラブの必要性が高い。そのような学区では、放課後子ども教室の必要性はあまり感じない。他の事業も、本当に必要なのか見直すことが必要でないか。いのちの教育推進事業、図書館事業、ボランティア事業等すべての事業について見直し、ポイントを絞って展開したほうが効果的と考える。

【落合委員】

様々の事業について、本当に重なる部分はないか。重なる施策については見直し、スリム化し、別の事業を展開したほうが良いのではないか。

【舛田委員（座長）】

放課後子どもプランについて、どのように考えるか。プランの始まりの頃からの話題である。連携という視点もあるが、県としてどう考えているか。

【生涯学習振興課】

指摘の、施策を絞って展開するという視点は重要である、検討したい。放課後子どもプランでは、山形市などの都市部では、クラブのニーズが高く、不足の状況であるが、郡部では、人数がそろわずクラブが設置できない市町村もあり、教室のニーズも高い。ニーズは市町村ごと様々である。放課後子どもプランがスタートしてから、クラブ関係者の方々の声を聞く機会が増えており、連携も深まってきている。県としては、各市町村に、どちらかがあることが望ましいという基本的なスタンスで事業を展開している。事業の重なりについても、検討していきたい。

(2) 平成24年度社会教育関係団体補助金について

【生涯学習振興課】

社会教育関係団体補助金について説明

【舛田委員（座長）】

これでよろしいか。

【委員】 了承。

(3) 山形県生涯学習振興計画(仮称)の策定について

【生涯学習振興課】

平成14年に策定した第3次の計画は、明確な計画期間は定めていないが、10年近くが過ぎ、社会状況や県民の実態変化に対応した計画が必要であるため、社会教育分野を中心に現状分析し課題を整理した「中間まとめ」を、昨年度2月の社会教育委員の会議で報告し意見をいただいた。その際、高齢化社会における生涯学習等についても取り上げるべきであるとの意見をいただいた。また、今年度第1回の作業部会でも、もっと幅の広い計画にするべきであるといった意見が出された。このような意見を受けて、教育庁内で位置付けや考え方について再度検討をしてきた。その結果「第4次計画という位置付けにはせず、5教振の生涯学習や社会教育の内容を補完・拡充するもの」というこれまでの考え方を拡げ発展させて、「第3次山形県生涯学習振興計画の総括をして成果や課題等を整理し、生涯学習振興計画を策定する」という考え方に至った。

昨年度の作業部会を中心にまとめてもらった「中間まとめ」を活かし、さらに拡げて新たな指針となる「第4次山形県生涯学習振興計画」を策定していきたい。組織体制についても拡げた体制を検討していきたい。ご協力をお願いしたい。

【舛田委員（座長）】

中間まとめにあるように、これまでは範囲を限定して策定する予定であったが、これまでの経過の中で、拡充するべきだということになった。この社会教育委員の会議からも特別委員会ということで安藤委員、野口前委員からも入っていただき検討いただいている。組織についても拡充が必要になってくる。策定の時期等にも影響がある

かもしれない。社会教育委員の会議として、その方向性を了承することでよろしいか。

【安藤委員】

五教審と第四次振興計画の関係性はどちらが上位概念なのか。策定委員会の経過について報告して欲しい。新しい委員の方もいるので、23年度の経緯も説明して欲しい。

【生涯学習振興課】

策定委員会は生涯学習関係各課で組織された委員会、11月に1回開催し、生涯学習振興計画の策定と方向性について了解いただいている。原案を策定する作業部会は3回開き、これまでは、社会教育分野を中心に議論した。

五教審と第四次振興計画のどちらが上位概念なのかについては、庁内ではまだ、きちんと議論していない。通念上、生涯学習の方が上位概念と考えるが、五教審は、教育庁全体で総力を挙げて作成したものであり、新たな振興計画は、これと調和・整合性をとったものにしなければならないと考えている。

【舛田委員（座長）】

若干時間があるので、最初の話題に戻りたい。意見があれば伺いたい。

【加藤委員】

幼児共育を地域との協力のもと進めていかなければならないが、ふれあい広場の事業を進めるときに、いのちの教育サポーターと協力できないか考えている。社会教育で持っている豊富な情報を提供いただきたい。様々な方々とゆるやかな連携をしながら、事業展開することも大切だと考えている。

【生涯学習振興課】

いのちの教育推進事業も各教育事務所と自然の家が中心となって展開している事業であるので、ぜひ連携できるように検討していきたい。

【加藤委員】

舛田先生が「新しい公共」について講演なされた時、これからはゆるやかなネットワークが大切だといわれていた。そのとおりと感じている。

【岩沢委員】

放課後子どもプランに当初から関わっているが、課題もあり、子供たちにとって、本当に良い居場所づくりになっているか、それを支える地域となっているか。事業に取り組んでから5年が経過し、本当にこのまま突き進んでいいのか考えている。市町村に対しての調査等も必要ではないか。子ども教室は、専門家が子ども達に携わっている訳ではないので、子どもにとって良い事業となっているかどうかの確認作業が必要と考える。

【生涯学習振興課】

県の子どもプラン推進委員会でも同様の意見が出されたが、市町村にある子ども教室と児童クラブの事業を検証して、新たな連携システムを模索したいと考えている。

事業6年目となり、県としてもターニングポイントの時期と考えている。子ども達にとってどうだったのか、地域の大人にとってどうだったのか等、各市町村の事例をまとめて、事業評価を行い検証していきたい。

【舛田委員（座長）】

放課後子どもプランについては、これまで各地区で様々な経緯を持ちながら進めてきた。全体に関わってであるが、各事業の評価・検証をしっかりとしたい。学校教育では、短い期間で見事に評価しているが、社会教育については、この部分が弱いように感じている。

【齊藤委員】

学校現場の者としては、五教振との兼ね合いが一番大切だと感じている。その上でリンクする部分について、学校でやれること、社会教育でやれることを明確にしていくことが必要である。それぞれ一生懸命やっているのだが、お互いのことを意識しないで実施している部分が多く、重なりも出てくるし、要らぬ労力を使っている面がある。

山形の伝承活動について、子ども達が山形のことを本当に知っているのか。現場において考えさせられている。自分がいる地区の郷土文化は知っていても、他地区の文化については、全くわかっていない。山形県には、他県に誇れる豊かな伝統文化が残っているのに、そのことに子供たちは気づいていない。山形県の素晴らしい郷土文化を知った上で、自分達の郷土はこんな素晴らしい地区なのだと感じて欲しい。そのような多様性のわかるシステムになっているか。五教振がらみと考えているが大事にして欲しい。

【舛田委員（座長）】

五教振にからんで、事業間の重複の問題等についていかがか。

【生涯学習振興課】

山形県の教育は、五教振の計画にそって展開されている。生涯学習振興課も五教振の考え方にそって、生涯学習・社会教育事業を推進している。生涯学習振興計画と五教振を互いに統合調和させながら進めていきたい。

伝統芸能については、遠藤委員にぜひご発言願いたい。

【遠藤委員】

社会教育の必要性を感じている。山寺地区でも公民館のコミセン化に伴い、蔵書が消えた。読書の大切さ、図書館等の充実が必要と感じている。

伝統芸能関係では、会津にすばらしい博物館がある。福島市や郡山市のような大きな市ではなく、会津にあるということに驚いている。山形県の伝統文化を守り拡げていくためにも検討いただきたい。

伝統芸能に出合った時、それを守っている大人と地域の素晴らしさに感銘を受けた。それを引き継いでいくためにどうすればよいか、子供たちに引き継いでいくことは当然だ。県内各地でも、伝統芸能を守るために、学校から協力いただき行っている。しかし伝統芸能を学校に任せきりにすると、いずれ地域から消えてしまう。地域と学校と関わるすべての人が携わって行かないと伝統芸能は消えてしまう。

伝統芸能の中には、様々な生活の知恵や地域の文化など大切なものが多く含まれている。これらを守り、拡げていくための方策の一つとして、伝統芸能のネットワークを村山地区で作った。時間はかかるが、このネットワークを、東北規模に広げていきたいと考えている。強引にではなく、自然に形成されるような連携を考えていきたい。

(4) その他

【生涯学習振興課】

山形県社会教育連絡協議会の理事として、舛田委員、金澤委員に理事をお願いした。ご了承いただきたい。

【舛田委員（座長）】

この会からの理事として、ご了承いただけるか。

【委員】

了承。

5 連絡

委員の方に議事録送付確認の後、ホームページに掲載予定。

2月14日（木）に、167回社会教育委員の会議を開催。

6 閉会